



平成25年4月17日（水）
荒川水系渇水調整協議会
（事務局：関東地方整備局）

記者発表資料

平成25年度
第1回荒川水系渇水調整協議会
（春季定例会）の開催結果について

『荒川ダム群の貯水量は平年を上回る』
荒川水系渇水調整協議会春季定例会開催される

- 開催状況 日時：平成25年4月16日（火）15：00～16：00
場所：さいたま新都心合同庁舎2号館 14階 災害対策本部室
協議会構成：国土交通省関東地方整備局、東京都、埼玉県、独立行政法人水資源機構
協議会の目的：荒川水系の渇水時における円滑な水需給の調整を図る。
- 現状と今後の見通し（詳細は、別添概要書参照）
 - ・ダムの貯水状況 荒川4ダムでは、平年を上回る貯水量（8,403万 m^3 ）
 - ・今後の見通し 荒川4ダムの貯水量は平年を上回っていますが、これからは水需要の多い時期となることから、今後の降雨状況によっては、ダムの貯水量が不足することも考えられます。
- 今後の対策（詳細は、別添概要書参照）
 - ・ダム等水資源開発施設については、きめ細かな水運用を行っていく。
 - ・必要に応じて、節水協力の要請と取水制限等の機動的な対応を行っていく。

発表記者クラブ

埼玉県政記者クラブ、竹芝記者クラブ、
神奈川建設記者会、東京都庁記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 河川部水政課	住所 〒330-9724 埼玉県さいたま市中央区新都心2-1 さいたま新都心合同庁舎2号館
水政調整官 小池 勇（内線）3515 水政課長 澤田 晋（内線）3551 建設専門官 一條 勝志（内線）3557	電話 （代表） 048-601-3151 （水政課夜間直通） 048-600-1334 （河川環境課夜間直通） 048-600-1336
河川部河川環境課 河川環境課長 徳道 修二（内線）3651 建設専門官 榎澤 義一（内線）3652	
国土交通省 荒川上流河川事務所 副所長 中村 太喜（内線）205 管理課長 桑原 福造（内線）331	住所 〒350-1124 埼玉県川越市新宿町3-12 電話 （代表） 049-246-6371

平成25年度第1回荒川水系渇水調整協議会（春季定例会）の開催結果について（概要）

1. ダムの貯水状況と今後の見通し

平成25年1月からの降水量と荒川4ダムの貯水量状況は、表のとおりで、降水量は平年を下回っていますが、貯水量は平年を上回っています。

	累加降水量	平年比	備 考
降水量 (1月から3月まで)	89mm	62%	平年を下回る (S40~H24平均)
荒川4ダムの貯水量 (4月15日0時現在)	8,403万 ^m (貯水率58%)	129%	平年を上回る (H12~H24平均)

荒川4ダム貯水量の内訳

ダム名	貯水量(万 ^m)	貯水率(%)	平年比(%)
二瀬ダム	1,565	78	104%(H12~H24平均)
滝沢ダム	2,954	51	—
浦山ダム	3,052	55	75%(H12~H24平均)
荒川貯水池	832	82	87%(H12~H24平均)

※滝沢ダムを除く3ダムで平年比を計上。

荒川4ダムの貯水量は平年を上回っていますが、これからは水需要の多い時期になることから、今後の降雨状況によっては、ダムの貯水量が不足することも考えられます。

2. 今後の対策

- ① 荒川ダム群においては、今後の降雨状況、農業用水や都市用水の水利用を踏まえて、きめ細かい運用を行っていきます。
このため、上流ダム群の貯水量の状況や降雨状況の情報提供を引き続き行っていきます。
- ② 荒川水系渇水調整協議会としては、必要に応じ幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していくとともに取水制限等の調整が必要となった場合には、機動的な対応行っていきます。

※ ホームページでも情報をお届けしています。どうぞご利用下さい。

<http://www.ktr.mlit.go.jp/river/shihon/index00000010.html>

(首都圏の水資源状況について)

荒川ダム群等の現況と今後の対策について



滝沢ダム(平成25年4月9日撮影)

平成25年4月16日

関東地方整備局

1. 荒川ダム群等の現況

(1) 降水量

平成24年の荒川秋ヶ瀬上流域の降水量は、ほぼ平年並みとなりましたが、水需要の多くなる5月から9月においては、7月、8月を除き平年を上回る降水量でした。特に5月は平年の約2倍となる257mmの降水量となりました。

また、10月、平成25年2月、3月は平年を下回りましたが、4月はすでに平年を上回る降水量となっています。

平成25年1月から3月の累加降水量は89mm（平年1月～3月までの累加144mm）と平年の約62%となっています。

4月の降水量は、14日までで125mmとなっています。（図-1、表-1参照）

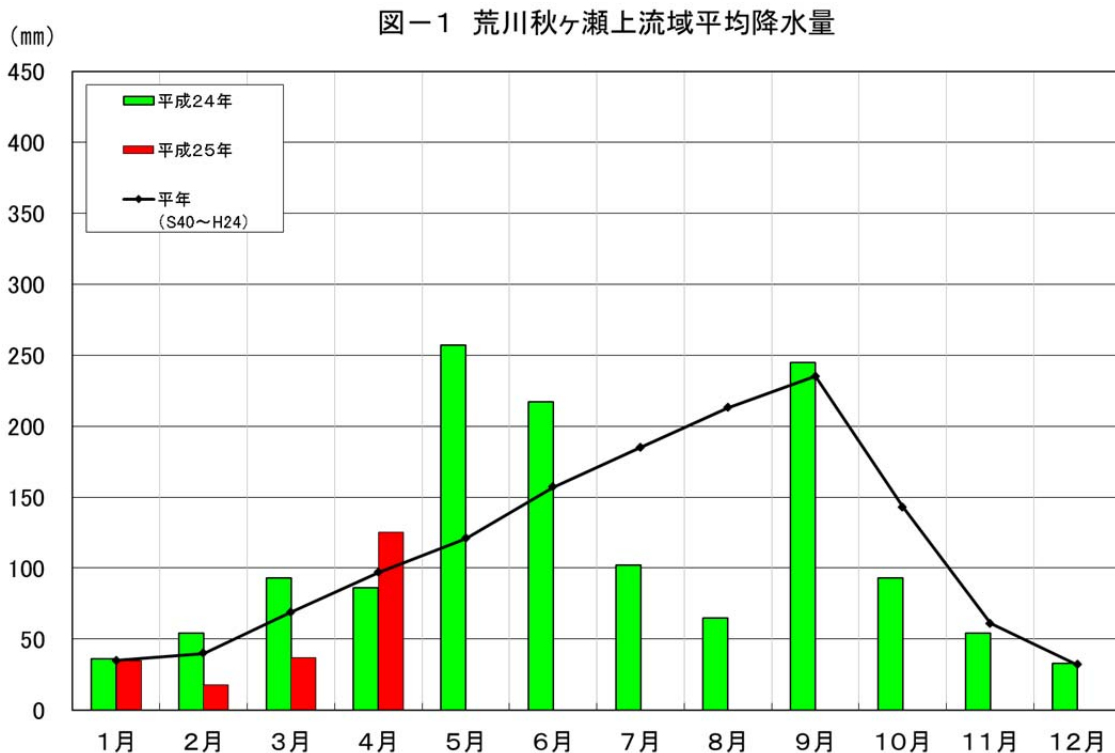


表-1 荒川秋ヶ瀬上流域平均降水量

単位 (mm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
昭和62年	16	29	66	8	66	88	146	103	280	91	46	36	975	利根川・荒川夏渇水
平成2年	22	67	83	138	48	55	77	228	473	134	301	31	1,657	利根川・荒川夏渇水
平成4年	26	15	118	136	117	250	87	177	63	285	52	29	1,355	荒川夏渇水
平成5年	82	34	37	44	76	186	275	276	204	112	113	25	1,464	荒川夏渇水
平成6年	42	44	64	25	111	103	152	142	344	119	21	24	1,191	利根川・荒川夏渇水
平成7年	24	25	111	44	129	239	177	109	180	73	24	0	1,135	荒川夏渇水
平成8年	1	22	55	62	80	47	204	32	314	74	57	17	965	利根川・荒川冬夏渇水
平成9年	21	13	57	70	187	168	148	72	204	7	87	21	1,055	利根川・荒川冬渇水
平成13年	98	17	98	30	179	120	69	279	444	247	67	9	1,657	利根川夏渇水
平成24年	36	54	93	86	257	217	102	65	245	93	54	33	1,335	利根川夏渇水
平年 (S40-H24)	35	40	69	97	121	157	185	213	235	143	61	32	1,385	
平成25年	35	18	37	125									214	
平年比 (%)	99	45	53	129									15	

平成25年4月14日まで

- ※. 荒川取水制限実施月（一時緩和含む）
- ※. 各月の降水量は端数処理（小数点第一位を四捨五入）した値
- ※. 秋ヶ瀬上流域面積 2,021 km²

(2) 荒川ダム群の貯水状況

平成24年の荒川ダム群（二瀬ダム、滝沢ダム、浦山ダム、荒川調節池）は、5月10日に貯水量1億2,394万m³、常時満水容量に対する貯水率86%に達し、その後、下流に補給を行いました。7月以降は、夏期制限容量の確保と共に補給を実施し、10月以降は貯留に努めました。少雨や無降雨日の影響から補給・貯留を繰り返す運用となりました。

平成25年1月1日時点における貯水量は、6,759万m³と平成24年（8,226万m³）と比べ1,467万m³少ない貯水量でしたが、平成25年4月15日0時現在の貯水量は、8,403万m³（常時満水容量1億4,420万m³に対して58%、平年の貯水量6,539万m³に対して129%）と平年を上回っています。（表-2、図-2参照）

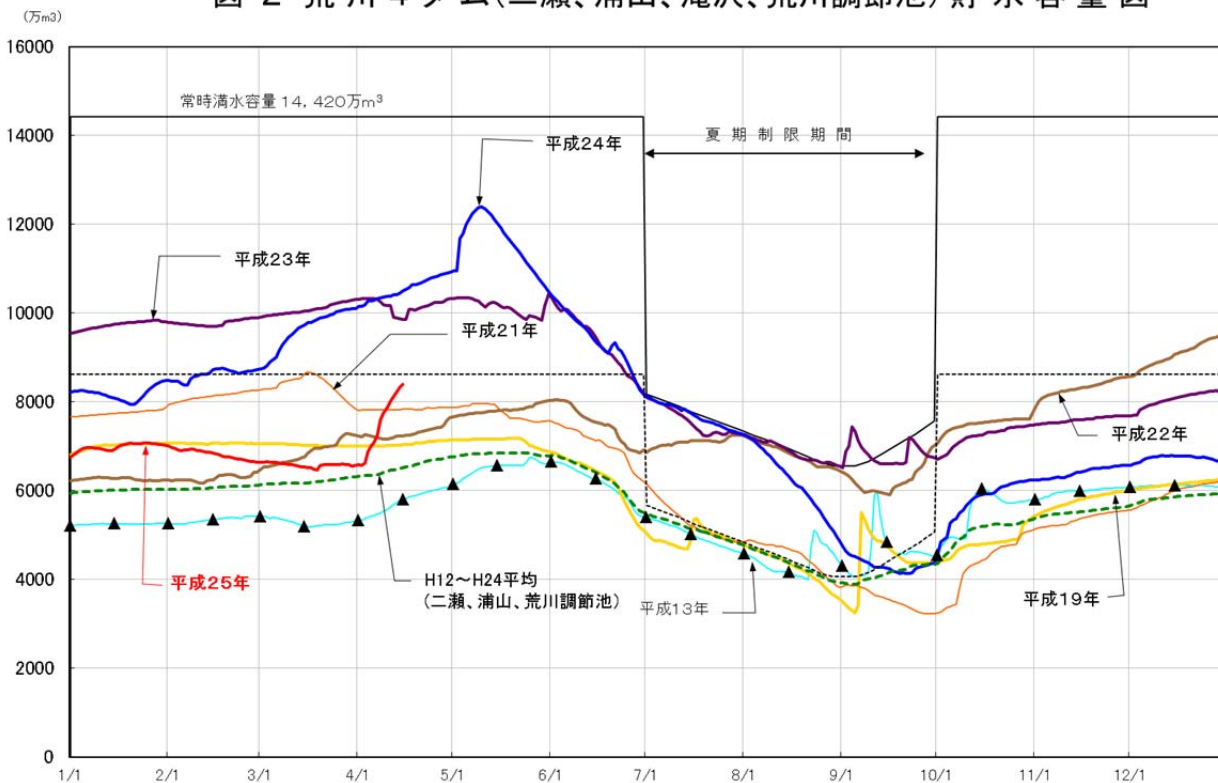
表-2 荒川4ダム貯水量

平成25年 4月15日0時現在

ダム名	有効容量 (万m ³)	貯水量 (万m ³)	貯水率 (%)	前日補給量 (万m ³ /日)	平年比 (%)
二瀬ダム	2,000	1,565	78	-11	104
滝沢ダム	5,800	2,954	51	-13	-
浦山ダム	5,600	3,052	55	-7	75
荒川貯水池	1,020	832	82	-54	87
4ダム合計	14,420	8,403	58	-85	129

1. 有効容量は、常時満水容量。
2. 貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。
3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。（プラスの場合はダムの集水区域からダムへ流入してくる水より、ダムから放流する量が多い）
4. 4ダム合計の平年比は、二瀬ダム、浦山ダム、荒川貯水池の平年貯水量の合計に対する割合。

図-2 荒川4ダム(二瀬、浦山、滝沢、荒川調節池)貯水容量図



2. 今後の見通し及び対策

(1) 見通し

- ① 平成25年4月12日発表の気象庁の1か月予報によると、4月13日から5月12日の関東甲信地方の降水量については、「平年並または少ない」となっており、3月25日発表の気象庁の3か月予報によると、降水量は、5月、6月は「平年並」となっています。

1か月予報（平成25年4月12日発表）

【気温】 関東甲信地方	40	40	20
【降水量】 関東甲信地方	40	40	20
【日照時間】 関東甲信地方	30	40	30

凡例:  低い(少ない)  平年並  高い(多い)

3か月予報（平成25年3月25日発表）

3か月	30	40	30
4月	30	40	30
5月	30	40	30
6月	30	40	30

凡例:  低い(少ない)  平年並  高い(多い)

- ② 荒川4ダムの貯水量は平年を上回っていますが、これからは水需要の多い時期となることから、今後の降雨状況によっては、ダムの貯水量が不足することも考えられます。

(2) 対策

- ①. [荒川水系におけるダム群の貯水量の確保]
荒川ダム群においては、今後の降雨状況、農業用水や都市用水の水利用を踏まえて、きめ細かい運用を行っていきます。
このため、荒川ダム群の貯水量の状況や降雨状況の情報提供を引き続き行っていきます。
- ②. [荒川水系渇水調整協議会の取り組み]
荒川水系渇水調整協議会としては、必要に応じ幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していくとともに取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的な対応を行っていきます。

